

pick up!

「探究的な学び」研究調査委員会

中学校の「探究的な学び」を 問い直す



「探究的な学び」研究調査委員会は、郡市からの推薦と公募による16名の中学校の先生方で構成された委員会です。原則2年間をかけて中学校における「探究的な学び」について考えていきます。1年目の今年は「探究とは何か」「探究的な授業とは」という本質的な部分にこだわって学び合いました。

第1回 探究する力を身につけるために

7月16日(火)

～「なんとなくセンサー」を研ぎ澄ます～

市川力氏

一般財団法人みつかる+わかる代表理事、
慶應義塾大学 SFC 研究所 上席所員

【お話と演習】

探究＝探検＋研究

- 身の回りのささやかな出来事を観察する
- 偶発的な出会い・出来事を面白がる
- 思いつきを大胆に語り、試行錯誤する
 - 歩く…「止まって少しずつ進む」(少し止まれば観察の感度が上がる＝Feel度Walk)
 - 「なんとなくセンサー」を研ぎ澄ます(あれ?おや?→とりあえず写真に撮る→あてもなく追いかける)
 - 知図を記録して残す(体験的な発見＝自分なりの知が集まった図)→スケツ知図
 - みんなの発見をみんなにシェアし、ともに面白がる仲間となってアイデアを生成し続ける
 - 日々の雑集め＝それぞれ無関連だから思わぬつながりが生まれる

(さっそくやってみよう!)

- 発見の感度をあげるために歩く(会館～善光寺)、歩きながら気になったものを写真に撮る
- 自分の発見や他人の発見を意識しながら再度歩く
- 自分の発見や他人の発見を意識しながら再度歩く
- スケツ知図を描く
- 昼食時にグループごと写真を見せながら発見をシェア
- スケツ知図を一人一人説明しながら全員で見る

第2回 中学校における『探究的な学び』をデザインする

8月1日(火)

伏木久始氏

信州大学学術研究院・教育学系教授

【講義とグループディスカッション】

- 現状の学校教育をどう捉えるか
 - 一人一人ができる改革
 - これからの学校に求められること
 - 私たちは変われるか
 - 中学校における「総合的な学習の時間」
- 研究計画の立案について(説明と実際)
 - 自分の実践の省察
 - ゴールをイメージする
 - お互いのゴールイメージを共有する
 - 目標に向けて解決の計画を立案(ロードマップ作り)
 - 職場で孤立しない戦略・計画実行は柔軟に
 - 自分のプロ意識を鍛える
- 伏木先生のつぶやき(補足)
 - 学校リフォームプロジェクト(時間割の柔軟化、校外に出る学習の保障、子どもや保護者への啓蒙、子どもたちが教師と学校を創る経験を与えられないか)



第3回 探究的に学ぶ子どもたちから『探究的な学び』を学ぶ

10月1日(火)

安積 順子氏

キャリア教育コーディネーター、
現箕輪町教育委員会指導主事

【講義とグループディスカッション、演習】

- キャリア教育とは、探究とは

キャリアとは轍のこと。心に残る体験はその人の帰りを作る。今在る課題＝問題点ではない。問いに生きる 探究…正解がない、成り行きを楽しむ、おもしろがって
- 先輩教師の言葉

淀川茂重「途上」、大槻武治「未完の姿で完結している」、牛山栄世「学ぶということ」
- 今、小中高生はどんな探究をしているか
- 探究＝学びをつくるのは生徒、学びを後押しするのは大人、教師
- 探究にかかわった地域の方から

大人の満足を押し付けない!さまざまな「しつらえ」の中での自分を活かすのではない。若者の強みを活かす、そうすると若者の弱みが強みに変わる、すると地域が変わる・「総合的な学習の時間」は授業、そこから飛び出て、いかに、自分を活かすか、試すか!とらわれを捨てて、やりたいことをやってみる、人・場・時間をつなごう!
- グループワーク 「中学校教師として『私』にできること」(意見交換)
- ディスカッションドラマ体験(平田オリザ氏)
 - 5人1グループ、テーマ「太陽光パネルの地域設置」
 - 司会者、推進派、反対派、中立派、有識者に分かれテーマについて話し合う
 - 「主体的・対話的で深い学びを拓く＝アクティブラーニング」…対話とは相手を打ち負かす技術ではない。まったく違う背景や動機を持った2人(以上)が語り合うことによって、1人ひとりが変わっていくことである。何人も参加者がそれぞれ違う主張をぶつけることで、全員が納得するゴールに至るプロセスなのである。(平田氏)

第4回 長野市立長野中学校の全県研究大会授業から学ぶ

11月8日(金) オンライン

- 委員の所属校でもある市立長野中での公開授業(11/5)を参観し、それを基に委員会で意見交換を行った。
- 長野中の委員から公開授業及び研究について改めて概要を説明し、その後グループ協議を行った。

第5回 1年間のまとめと2年目研究に向けてどう取り組んでいくか

2月14日(金) オンライン

- 委員の所属校でもある浅間中での全県研究大会の授業の様子(研究内容)を発表。(予定)
- 1年間の成果と課題(2年目に向けて)についてグループ協議を行う。(予定)

委員の感想

- 街を歩き、自分の気になったことを写真に撮り、さらに図に描いてみる。次にどうしてそこに気持ち止まったのかを発表し合うという経験がとても新鮮だったし、ある意味衝撃的だった。探究の授業をどうこの前に、自分自身の探究のセンサーを働かせることをもっと日頃から意識したい。(第1回委員会の感想)
- 伏木先生のお話の中で、自分の実践を振り返ったとき、生徒たちの探究の芽を摘んでこなかったかどうかを考えてみてほしいというのがあった。どうしても「テーマがあるからやる」となってしまうことが多く、生徒が本当にやりたくてやっているかジレンマがある。どうすればいいかこの委員会での学びを通して考えていきたい。(第2回委員会の感想)
- 自分の学校の近くの小学校の探究的な活動は頑張っている。中学校でも3年間かけてやるが、高校にどうつながっていくのか知りたかった。安積先生から高校の実践を紹介してもらい、高校でも探究的な学びをここまでやっている学校があることを知り、小中高のつながり、今の学びがその人の一生につながっていくのだということについて考えた。(第3回委員会の感想)